

日本地震工学会「原子力発電所の地震安全問題に関する調査委員会」報告会 報告

日本地震工学会・原子力発電所の地震安全問題に関する調査委員会では、原子力発電所の地震安全に係る地震工学的研究課題を網羅的に抽出・体系化して地震安全研究ロードマップを検討して取りまとめました。この度、その成果を広く発信することを目的とした報告会を2012年2月21日(火)に建築会館ホールにおいて開催しましたので、その内容について報告いたします。当日は約160名と当初定員120名を大幅に上回る非常に多くの方々の出席をいただき、原子力発電所の地震安全問題への関心の高さを感ずることができました。報告会のプログラムは次の通りです。

- | | | |
|-------------|--|-----------------------|
| 9:30~9:35 | 開会挨拶 | 【日本地震工学会 川島一彦会長】 |
| 9:35~10:00 | 委員会活動の概要—新潟県中越沖地震から東日本大震災へ | 【亀田委員長】 |
| 10:00~10:40 | 招待講演：福島第一原発事故の要因と課題 | |
| | 【日本原子力学会 原子力安全調査専門委員会 技術分析分科会 二ノ方 壽主査】 | |
| 10:40~11:40 | リスク課題 | |
| | リスク論、セーフティバースト | 【高田毅士(東京大学)】 |
| | 地震PSAから地震・津波PSAへ | 【蛭沢勝三(JNES)】 |
| | 社会技術的課題 | 【伯野元彦(東大名誉教授)】 |
| 休憩 (60分) | | |
| 12:40~14:40 | 耐震裕度 | |
| | 建屋・構築物 | 【今塚善勝(大林組)】 |
| | 地盤 | 【中村 晋(日本大学)】 |
| | 設備・機器 | 【落合兼寛(JANTI)】 |
| | 免震 | 【皆川佳祐(埼玉工大)】 |
| | 耐津波裕度 | |
| | 事故と安定を分けるもの | 【宮野 廣(法政大学)】 |
| | 耐津波工学の提言 | 【亀田弘行(京大名誉教授)】 |
| 休憩 (10分) | | |
| 14:50~15:50 | ハザードの理解 | |
| | 地震タイプ、地震動シミュレーション | 【藤原広行(防災科研)】 |
| | 津波波源と震源断層の統合理解 | 【杉野英治(JNES)】 |
| | ハザードの理解におけるパラダイムシフト | 【香川敬生(鳥取大学)】 |
| 15:50~17:00 | 全体討論 | 【モデレーター：亀田委員長・高田副委員長】 |

川島会長による開会挨拶に続き、亀田委員長から委員会活動の概要として、委員会の趣旨、新潟県中越沖地震後の発足経緯、委員会の活動経過や成果(ロードマップ、東日本大震災に関する検証)などの説明がなされました。特に本報告会の特徴として、報告内容の順番について、自然現象にならって原因から結果への順ではなく、発電所を設計・評価する工学の視座から、リスク課題を最初としたプログラム構成になっていることが示されました。

次に、日本原子力学会 原子力安全調査専門委員会 技術分析分科会 二ノ方主査より招待講演「福島第一原発事故の要因と課題」がなされました。講演では、事故の概要、要因、課題、社会への事故のインパクトと脱原子力の危うさ、さらには原発の将来の方向性について説明がなされました。

その後、リスク課題、耐震裕度、ハザードの理解の大きな3つのテーマの中で12タイトルでの報告がなされました(講演タイトルは上記のとおり)。各タイトルとも地震工学、リスク評価、耐震設計、プラント設計、地盤工学、建築構造などの専門家によるもので非常に興味深い報告がなされました。

最後に、亀田委員長、高田副委員長をモデレーターとして、約10名の講演者による全体討論がなされました。会場から、ストレステストの意義、静的震度と設計用地震動の関係、個人として社会としてのリスクの受け入れ、耐津波工学の意義、原発のあり方に関する提言、委員会ロードマップのこれらについてなどの質問がなされ、講演者が答える形で進められ、報告会の終了となりました。

(文責：事業企画委員会 尾崎竜三 中央復建コンサルタンツ(株) / 小野祐輔 鳥取大学)



写真1 川島会長



写真2 亀田委員長



写真3 二ノ方先生 (招待講演)



写真4 高田副委員長



写真5 蛭沢委員



写真6 伯野委員



写真7 今塚委員



写真8 中村委員



写真9 落合委員



写真10 皆川委員



写真11 宮野委員



写真12 藤原委員



写真13 杉野氏 (依頼講演)



写真14 香川委員



写真15 全体討論会